



# 杉並景観録

## Keikikan-Roku

### SUGINAMI

第二号



●発行日——平成8年3月15日  
 ●発行——杉並区都市整備部まちづくり推進課  
 TEL.3312-2111(代)内線3515



荻窪園芸市場 (JA東京西部花卉)  
 昭和20年頃に創設。その前身にあたる花市場は、戦前から荻窪駅の近くで開かれていました。都内はもとより関東近県のなかでも、最も古い花市場のひとつ。昭和34年に中通町(現在の今川三丁目)に移転。その後、現在の下井草四丁目に移る。

## 春、花一番

威勢のいいセリ人の声が場内に響き渡り、いろいろな花の香りがあたり一面に立ちこめています。外のサクラはまたつぼみですが、ここ荻窪園芸市場(下井草四丁目)には、一足先に春を迎えた沖縄や九州をはじめとする各地から、いろいろな草花が集まります。

**春が彩られてゆきます**

大型トラックが焼つものまを運んで、農家で大切に育てられた草花を市場に運んで来ます。市場から花屋さんへ、花屋さんから家の庭先や玄関へと春が彩られてゆきます。まちの草木の芽吹く季節も、もうすぐそこまで来ています。



学院の幻の銘菓、スペインのポロポロスというクリスマスのお菓子。

昭和22年、大宮公園まで出掛けた時のもの。右端上段が初専科担任時代の中野さん。



現在、およそ千五百人の女子生徒がこの学び舎に通っています。



クリーム色の壁に赤い屋根の開校当時の校舎



## まちなみに溶け込む 女生徒の姿

昭和三年に創立者マドレ・マルガリタが、スペインのメルセス宣教師道女として、来日。昭和六年に東京府豊多摩郡杉並町高円寺に、光塩高等女学校(五年制高女)として開校しました。

周囲には、赤松の並木や植木園などがあり、みどりの多い住宅地でした。その後、戦火で校舎は灰になり、現在の校舎は四回目の改築によるものです。開校当時は向い側に、杉並第三小学校が建っていました。

西川 私が生徒だった昭和十一年頃は、環七などまだ無くて、あの辺りを歩くとまわりの雑草で膝まで汚れたものでした。青梅街道には、萩澤と新宿の西口を結ぶ市電が走っていましたね。それで新宿まで出て、そこから今の伊勢丹の所にあつたほてい屋というお店の前から、若松町方面へゆく市電をよく使いました。当時の市電は、窓ガラスが無く雨風が容赦なく吹き込んで来て、運転手さんは大変だったと思います。

西川 蚕糸試験場に皇太后がご見学いらした時、生徒全員お迎えに行つたことがあります。試験場の入口でお辞儀をしてお迎えするのです。めつたにお目にかかれないうつから、少しでもお姿を見たいと思つて、ちよつとでも頭を上げると随分と先生に怒られました。

中野 教べんをとるようになってからの思い出といえは、台風の際に、桃園川があふれて水が上がることでせう。

西川 年に二、三度はありましたね。宝橋が水浸しになって、くるぶしのあたりまで水が上がりつてしまひ、ひどい時は膝まで水が上がりつて大変でした。中野 雨が降ると心配で、何度も外に様子を見に出たりして、男の先生に通学路の安全を確かめてもらひ下校時間を早くして生徒を帰しました。

## 桃園川があふれて、生徒は裸足で 帰つたものです

西川 生徒は皆、裸足になつて駆まて帰つたのですが、不平を言う子はいませんでしね。今の子どもにはとても考えられないことでしょう。桃園川が暗渠になつて、本道に助かります。最近緑道として整備されきれいになつたので、中野に行く時よく利用します。車が来ないし、安心してみどりを歩かしながら歩きます。

中野 けれど、以前はそれのお宅に庭があり、木や草花が植えられていましたね。今では敷地一杯に建物が建てられ、あの頃あつたみどりが随分と少なくなつてしまひました。それが、残念ですね。

### 西川千鶴子

さん/高円寺南二丁目在住  
Nishikawa Chizuko

#### PROFILE

(にしかわ・ちづこ)  
光塩女子学院主事  
同校の卒業生。昭和25年より同校にて教べんをとり、昭和44年より第五代校長を23年勤める。

### 中野敏子

さん/高円寺南三丁目在住  
Nakano Toshiko

#### PROFILE

(なかの・としこ)  
光塩女子学院初等科講師  
同校の卒業生。昭和22年より同校にて初等科の教べんをとる。杉並第六小学校の卒業生でもある。



まらる語る石が中野さん、左が西川さん。

正門横のサクラが毎年新入生を迎える。撮影…西川千鶴子



橋風景

杉並区には、三本の川が東西に流れています。そのひとつ、神田川が井の頭通りと交わるあたりに栄泉橋(和泉二一六)があります。

この橋は、区内でも珍しい木の風合いをいかしたもので、和泉小学校や和泉中学校と住宅地を結んでいます。橋が造られたのは昭和四十二年、今の姿になったのが平成五年の改修工事です。

以前、橋の向かいに和泉中学校の正門がありました。昭和五十八年の中学校の改築で正門が移動し、現在は橋のむこうはグラウンドです。車はほとんど通らず、子供たち専用の橋となっています。川沿いの桜が咲く頃は、散歩を楽しむひとで賑わいます。

今日も「おはよう」「また明日」と、子供たちの元気な声が橋の欄干に響きます。木のぬくもりを感じさせる橋は、そんな子供たちをやさしく包んでいるようです。

## 橋のある風景



# すぎなみ／ひと／まちなみ

SPECIAL EDITION



高円寺といえば、阿波踊り、庶民的な商店街、若者が集まるライブハウスなどが知られています。様々な世代がそれぞれの生活スタイルで共存しているまちといったイメージを持つ方が多いと思います。

一方、賑やかな駅前商店街を南に進んだ高円寺南界隈には、住宅街のなかに神社や寺院が点在し、驚くほど静かなまちなみが姿を現します。これもまた、高円寺のもうひとつの姿です。



## 神社や寺院が点在する住宅街

JR高円寺駅の南口を出て、高円寺中央公園に向かう下り坂を降りてゆくと、奉納踊りが阿波踊りの始まりとなった氷川神社、地名の由来となった寺院、高円寺があります。三代將軍徳川家光が、鷹狩りや遠乗りの折りに、しばしばこのお寺の茶室に立ち寄ったことでも、有名なす。随所にみられる葵の紋が、徳川家との親睦の深さを伺わせます。

## 高円寺南界隈

また、桃園川緑道を横切って高円寺南二丁目へ向かうと、浮世絵美人画の大家、池田英泉が福寿院に、幕末の農学者、佐藤信淵が松応寺に眠っています。その他、西照寺や区内でも古い建築物である宗泰院、など数多くの寺院があります。

杉並区のみならず、高円寺も江戸市民の野菜の供給地でした。住民の多くは、農業を営んでいました。それが、大正十二年の関東大震災を期に急速に住宅地として発展してゆきました。この寺町は、明治の末から大正にかけて、道路拡張などのために東京の旧市内から移されたものです。昭和三十八年には、この界隈に環状七号線が開通しています。今では、若者が多く住むまちとなりました。



## 神社や寺院が醸し出す落ち着きと人びとの穏やかな暮らしが感じられる



### まちとまちとを結ぶ散歩道

高円寺を東西に流れる桃園川は、昭和四十一年に下水道工事が終り、暗渠となりました。その三年後、桃園川公園として整備され、親しまれてきました。平成に入ってから改修で、桃園川緑道と名前も変わり、車に邪魔されずに安心して歩けるようになりました。



心して中野や阿佐谷へと歩いて行ける道として親しまれています。

所々に河童やラッコのブロンズ像が子供たちの目の高さには置かれています。通学路になっているため、ここを毎日通う子供たちにも親しまれています。子供たちに可愛がられるあまり、河童の頭がすり減るのでは、と近所のひとが心配する程です。時折、飴玉や十円が置かれていることもあり、現代のお地蔵様としてまちの人々に愛されています。

ともすると、賑やかな面ばかり取上げられがちの高円寺ですが、ここ高円寺南界隈は神社や寺院が醸し出す落ち着きとそこに暮らす人々の穏やかな暮らしが感じられるまちです。



N

E [杉並景観録] W

S

SUGINAMI URBAN DESIGN PRIZE

第5回杉並「まち」デザイン賞が決められました



南荻窪の住宅



上荻の住宅



ピストロ・オヂ



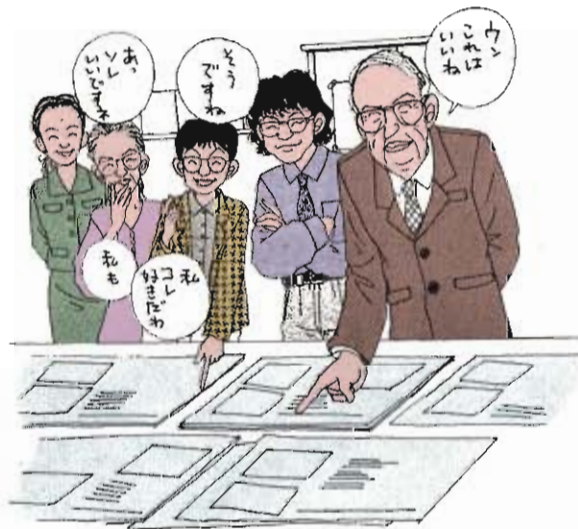
生17頃の続く道



風羅坊

この賞は、杉並の魅力あるまちなみづくりに貢献している建物や地域活動などを杉並区が表彰するものです。

昨年7月に広報・ポスターなどで募集したところ81件の推薦・応募がありました。その後3回の選考会での審査の結果、次のように賞が決められました。2月3日に産業商工会館で、(財)杉並区まちづくり公社の「まちづくり助成'95活動報告会」と併せて表彰式を行いました。次回は、平成9年度に実施する予定です。



選考委員右から  
CLコーポグループ(東京女子大学教授)  
大橋 信道(建築家)  
藤近 照実(ジャーナリスト)  
鹿野 幸子(女子美術大学教授)  
高倉 あつこ(漫画家)

イラスト/高倉あつこ

お待たせしました! すぎまるマガジン7です

今年の「すぎまるマガジン7」は、みんなのつけた杉並の一番を特集しています。杉並の素敵な場所や不思議なモノがたくさん載っています。区政資料室(区役所西棟2階)で、1部300円で販売します。

なお、4月3日から区内の各図書館・児童館・区役所まちづくり推進課(区役所西棟5階)で無料でプレゼントします。予定数(8,000冊)がなくなり次第締め切らせていただきます。



またひとつ、心に残る森が井草に生まれます

通産省機械技術研究所跡地(井草4丁目)に建設を進めてきました公園が、区立最大の井草森公園(いぐさもりこうえん)として、今春に完成します。

園内には、もともと植えられていたサクラやイチヨウなどをはじめとする多くの樹木や草花、中央に原っぱ、池やせせらぎがあり、四季折々の表情を楽しむことができます。又、多目的運動場や災害時の避難場所としての各種施設が設置されています。

森がひとを育み、ひとが森を育てる。公園の木々がまちの風景に馴染むにつれて、そんなエピソードがここから生まれてゆくことでしょう。



まちなみの絵はがき発売中

(財)杉並区まちづくり公社では、毎秋開催の「まちなみを描く会」の作品の中から4点を選び『杉並の絵はがき~まちなみシリーズ』(官製はがき4枚セット:300円)を作成、販売しています。

今年は『妙正寺公園周辺のまちなみ』が完成しました。ご希望の方は公社まで。

(財)杉並区まちづくり公社  
杉並区阿佐谷南3-1-33  
☎03(3220)4351

